

第1回幼・保・小合同研修会

と き 平成29年5月25日（木）午後3時～午後4時40分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

講演・演習 「想像遊びは楽しい」

～子どもはみんな豊かな表現力を持っている～

講 師 練馬区平和台児童館 副館長 中村 公美 先生

講師の中村先生は、長年「こどもの城」において、遊びを通じた健全育成をめざして「子どもの遊び」の研究・実践をしてこられた。現在は、練馬区平和台児童館において活躍されている。

参加者は、次々とはじまる想像遊びを、子どもの気持ちになって楽しみ、熱心にメモを取っていた。



① 「こんなお話できちゃった」…言葉で楽しむ想像遊び

「あるところに、まさえくんが住んでいました」をスタートに、グループで一人ずつ「絵」や「言葉（接続詞）」のカードから思いついたことを話していったら、どのグループもそれぞれユニークなお話が出来上がった。一人一人のイメージはばらばらなようだけれど、ひとつのお話になっていく一体感も味わった。

★ 小さい子は、大人がていねいに言葉を聞き取ってあげて遊ぶ。大きい子は、「そこで」「すると」などの言葉カードだけでも楽しめる。



② 「これ何に見える？」…形からイメージを膨らませる想像遊び

先生は大きな紙をびりびりと破り、「好きな1枚を拾ってね」と指示。「これ、何に見えるかな」と自分なりにイメージした。「回転させると違うものに見えてくるよ」のアドバイスで、ペンを使って描きいれると、「富士山」「お化け」など思い思いのものに変身した。

★ それぞれのイメージなので同じようでも「同じもの」はない。「これもいいね」「それもいいね」とひとつひとつを認めてあげたい。



③ 「表と裏で、これな～んだ」…ひらがな1文字からのイメージの違いを楽しむ想像遊び

二人組で、同じ文字のつくものをそれぞれ考えて、2枚の同じ大きさの画用紙に表現する。「わ」の二人は、「ワンワン」と「輪ゴム」の「わ」を考えた。シートを表と裏にセットして、「これなあに？」「いぬ！」じゃあ「裏」のこれは？「何だろう？」と、みんなの期待が集まったところで種明かし。歓声があがった。

★ 発表の仕方を工夫することで楽しさが増す。意外な方から見せる・ゆっくり見せるなど、見せるタイミングや見せ方の工夫でそこにいる全員が楽しめるようになる。子どもが発表するときには大人が配慮してあげることが大事。



「いぬ？」実は「ワンワン」



「わごむ」です



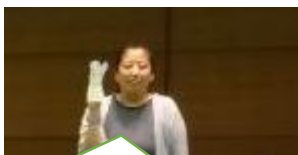
「ちきゅう」と「チーズ」



「えき」と「えがお」です

- ④ 「紙コップのパクパクねずみ人形」…「なりきる」ことで表現しやすくなる想像遊び
 パクパクねずみ人形を手に付けたら、気持ちはもう「ねずみ」。「ねずみさ～ん」「チュー！」。顔と顔を見合わせて「こんにちは」。バトンを口にはさんでリレーもできる。「しりとり」するときには自然に相手の顔を見る。声をそろえて一緒に歌おう！「♪ねずみのうたが、きこえてくるよ♪チューチュー♪」

- ★ 人形を持つことで、ごっこ（空想）の世界を共有しやすくなり、ひとつの世界で一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができる。もともとある「ねずみ」のお話の設定で遊ぶ・人形を使ってごっこ遊びのように空想の世界で遊ぶ・参加劇で遊ぶなどいろいろな楽しみ方ができる。
- ★ 人形があることで普段の自分とは違う役柄（性別や性格、言葉遣いなど）になることができ、いろいろな表現を楽しむことができる。
- ★ この人形は、「口が動く」ことがポイント。話す・食べる・口で運ぶなどいろいろな動きができるので、人形の形態に合わせた遊びを考えるとより楽しめる。
- ★ 人形で話すときは、顔の前で人形を動かすと、見ている人が人形と話をしているように感じられる。
- ★ 子どもは遊んでいる最中に現実に戻ったり、人形を外してしまう（落ちてしまう）ことがある。輪ゴムを付けた紙テープで手から落ちないように工夫をすることで、現実とねずみの世界を行ったり来たりしながらごっこ（空想）の世界を楽しむことができる。



「こんにちは・ちゅー」



ここに輪ゴムと紙テープ

- ⑤ 想像遊びは、「ゴール」（完結形）を決めないことが大事
- ★ 例えばお話づくりの場面で、子どもたちがいろいろ想像しても、うまくいかないこともある。そんなときは「つづく」で終わっても良い。「もうここでおしまいね」と終了させるのではなく、「“次”があるかもしれない」と思って、子どもたちから出てくる表現を受け止めて、広げて行ってほしい。

参加者のアンケートから

- 遊びだけでなく、その遊びを通してどのような子どもたちの想像を引き出すのか、どのような遊びに工夫して進化させていけるのか教えていただけで参考になりました。
- 時間や私自身のイメージにとらわれてしまい、子ども主体の想像遊びができていなかったと反省しました。言葉かけや、一人ひとりの個性を大切に、今後の保育に役立てて行きたいと思います。
- とても楽しみながら研修に参加することができました。日々何気なく制作するのではなく、制作の過程で子どもたちが自由に発想・想像を広げていくことが大切なんだと感じました。